

☆年間第32主日(11月12日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

**第一朗読 (知恵の書 6章 12-16節)**

知恵は輝かしく、朽ちることがない。知恵を愛する人には進んで自分を現し、探す人には自分を示す。求める人には自分の方から姿を見せる。知恵を求めて早起きする人は、苦勞せずに自宅の門前で待っている知恵に出会う。知恵に思いをはせることは、最も賢いこと、知恵を思っ  
目を覚ましていれば、心配もすぐに消える。

知恵は自分にふさわしい人を求めて巡り歩き、道でその人たちに優しく姿を現し、深い思いやりの心で彼らと出会う

**答唱詩編 (知恵の書 36章 2-6節)**

荒れ地のかわき果てた土のように、神よわたしはあなたを慕う。

神よ、わたしの神よ、わたしはあなたを慕う。

水のない荒れ果てた土地のように。

わたしの心はあなたを慕い、からだはあなたをかわき求める。

あなたの力と栄えにあこがれて、聖所であなただけを仰ぎ見る。

あなたの恵みはいのちにまさり、わたしの口はあなたをたたえる。

いのちのある限り、あなたに感謝し、

手を高く上げてあなたの名を呼び求める。

もてなしを受けた時のように、わたしの心は豊かに満たされる。

**第二朗読 (使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 3章 1-3節)**

兄弟たち、既に眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知っておいてほしい。イエスが死んで復活されたと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してください。主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは、決してありま

せん。すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラツパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。ですから、今述べた言葉によって励まし合いなさい。

### 福音朗読 (マタイによる福音書 25章 1-13節)

そのとき、イエスは弟子たちにこのたとえを語られた。

「天の国は次のようにたとえられる。十人のおとめがそれぞれともし火を持って、花婿を迎えに出る。そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。愚かなおとめたちは、ともし火は持っていたが、油の用意をしていなかった。賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた。ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠り込んでしまった。真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれのともし火を整えた。

愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、店に行って、自分の分を買って来なさい。』愚かなおとめたちが買いに行っている間に、花婿が到着して、用意のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。その後で、ほかのおとめたちも来て、御主人様、御主人様、開けてください』と言った。しかし主人は、はっきり言うておく。わたしはお前たちを知らない』と答えた。だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。

### 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

皆さま元気におられますか。暑い日が多かった 11 月もようやく本来の寒さがやってきました。外は風が吹いていて、木々はその寒さのために

震えているようで、銀杏の葉も一気に黄色く色づきました。また柿木も柿色に色づき、にぎやかになってきました。季節が一気に進んだ感じですが。教会の典礼の暦はこの一年の終わりに向かっています。世の終わり、神の国の完成を告げる朗読が読まれていきます。私たちはこの一年どのように神さまの恵みを受け過ごしてきたのでしょうか、考えてみましょう。また世界に目を向けると、大きな戦争が続いています。そのために多くの人々、中でもたくさん子どもたちが犠牲となり苦しみ悲しんでいます。この戦争が一刻も早く終わるよう祈りましょう。祈りは一時的な気休めではなく、聖霊が多くの人々の心に働きかけ、終結のための力を持つようになるのです。

### 第一朗読（知恵の書 6章 12-16節）

知恵とは単なる知識の多さや、賢さではない。真理に基づいた判断、いわば神の心と言えるものだと思います。私たちが日常遭遇する出来事を一番よく解決できる手段は何かを教えるものだと思います。人間的な都合の良い解決策ではなく、神のみ旨に従う道を探すのです。私たちキリスト者は「私は道、真理、命である」方の中に、まことの知恵があることを知っています。この知恵の書は最終的にこのキリストの向かう心を準備しているのです。

### 答唱詩編（知恵の書 36章 2-6節）

真の知恵である神に飢え乾く人間の姿を歌っています。飢え乾き、憧れ、慕い求める、仰ぎ見る、呼び求めるなどの動詞が力強く歌われています。

### 第二朗読（使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 3章 1-3節）

今月 11 月は死者の月と言われ、亡くなった方々を思い起こし祈る月です。今日の第二朗読はそれに沿ったパウロの手紙が読まれます。「ぜひ次のことを知ってほしい」と真の知恵を伝えています。イエスが死んで復活したように、イエスを信じて眠りについた人たちもイエスと一緒に復活するという神の知恵です。この背景には当時のキリスト者の「すでに死んでしまった人たちは

どうなるか」という疑問があったようで、それに応えるものだったようです。パウロの時代の教会ではまだいろいろな考え方があったようですね。

**福音朗読 (マタイによる福音書 25章 1-13節)**

イエスは天の国の到来についての賢い乙女のたとえ話の中で、私たちは神の国をどのように待ち準備しなければならないかを教えておられます。灯火と油は切り離せないものです。これは私たちに与えられた財産と言ってもいいでしょう。物質的なものだけではなく精神的、霊的なものでもあるでしょう。これらを私たちは上手に使って神の国に入る準備をしなければならないのです。賢い乙女たちは知っていたのです。神である花婿を迎えるのに必要なのはいつ花婿が来てもいいように油を備えておくことを。これこそ真の知恵、まことの賢さなのです。持ち物の整理、心の整理を常に心がけておけば慌てずに済むのです。



目覚めて用意していなさい。(2022年東京サレジオ学園)

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光